



鹿児島県立埋蔵文化財センター

Kagoshima Prefectural Archaeological Center

まいぶん



埋文だより

第82号

令和2年6月29日発行

新たな歴史の始まり 鹿児島（鶴丸）城御楼門147年ぶりの復元



ごろうもん

令和2年4月11日、鹿児島（鶴丸）城御楼門の完成式が行われ、明治6年の焼失以後、147年ぶりに御楼門が再建されました。鹿児島県立埋蔵文化財センターは、平成26年度から御楼門周辺の発掘調査を行い、その調査成果は御楼門の基礎工事や建物の復元・再建に関する貴重な情報となりました。復元された御楼門は、新たな鹿児島のシンボルとして多くの人々が集い、これからまちづくりにも活かされていくことでしょう。

目次

- ・新たな歴史の始まり（鹿児島城跡）……………1
- ・鹿児島城の歴史と御楼門、発掘調査成果…2・3
- ・新刊報告書1、西南戦争を掘り、学ぶ………4
- ・新刊報告書2、列島展に出品……………5
- ・令和2年度発掘調査予定遺跡……………6

鹿児島（鶴丸）城の歴史と御楼門



明治初期の鹿児島城（鹿児島県立図書館所蔵）

鹿児島（鶴丸）城の主な歴史

西暦	和暦	主なことごと
南北朝時代		城山に、上山氏によって上山城が築かれる
1600	慶長5	関ヶ原の戦い
1601	慶長6	島津家久が鹿児島（鶴丸）城の築城を始める
1604	慶長9	島津家久が内城から鹿児島城に移る
1606	慶長11	居館正面の板橋の渡り初め
1612	慶長17	御楼門の柱立
1639	寛永16	城内の屋敷の建て替え、石垣修復
1664	寛文4	鹿児島城南方の石垣2か所が崩壊
1696	元禄9	鹿児島城下で大火、城内に延焼し、本丸焼失
1707	宝永4	鹿児島城本丸再建工事終了
1773	安永2	藩校造士館・演武館が完成
1785	天明5	島津重豪、二之丸の整備拡大を始める
1791	寛政3	二之丸の庭園を含む大工事が完了
1810	文化7	御楼門前の板橋を石橋に架け替える
1843	天保14	御楼門の建て直し(1844年説有り)
1863	文久3	薩英戦争、本丸大奥二階や御楼門に被弾
1871	明治4	廢藩置県、熊本鎮台第二分営が置かれる
1872	明治5	明治天皇行幸
1873	明治6	鹿児島城本丸焼失
1877	明治10	西南戦争、二之丸焼失
1884	明治17	(県立)中学造士館設立
1901	明治34	(官営)第七高等学校造士館設立
1945	昭和20	空襲により校舎焼失、石垣の一部崩壊
1952	昭和27	鹿児島大学文理学部焼失
1957	昭和32	鹿児島大学医学部鴨池より移転
1960	昭和35	石垣一部崩壊
1974	昭和49	鹿児島大学医学部宇宙へ移転
1978	昭和53	鹿児島城本丸発掘調査
1983	昭和58	県歴史資料センター黎明館開館
1999	平成11	御角櫓跡発掘調査、石垣修復
2015	平成27	鹿児島城発掘調査開始
2020	令和2	御楼門復元

鹿児島城は初代薩摩藩主島津家久（忠恒）
が慶長6（1601）年頃に築城をはじめ、慶長末（1615年）頃にほぼ完成したとされています。城の正式な名称は鹿児島城で、「鶴丸城」の呼称は背後の城山の形が、鶴が舞っているように見え、鶴丸山と呼ばれたことにちなむと江戸時代後期の「三国名勝図会」に記されています。

本来の鹿児島城は、背後の山城（上山城）と麓の居館からなり、江戸時代前半の絵図では、山城部分の曲輪を本丸、二丸（二之丸）とし、麓の居館は居所（居宅）と記しています。

江戸時代を通じて藩政の中心を担ったのは麓の居館部分で、江戸時代後半には、現在黎明館がある、三方を石垣と濠に囲まれた藩主の居館を本丸、その西側を二之丸と呼ぶようになりました。また、天明5（1785）年から8代藩主島津重豪により、二之丸の整備拡大が図されました。

その後、大政奉還があり、明治4（1871）年の廃藩置県で12代藩主島津忠義が去るまで、270年余り島津氏の居城として、近世鹿児島の中心でしたが、本丸と御楼門は明治6（1873）年の火災で、二之丸は明治10（1877）年の西南戦争で焼失しました。



島津家久（忠恒）（尚古集成館所蔵）

度重なる火災と再建の時代

鹿児島城は築城以降、度重なる火災や羽蟻（シロアリ）の被害によつて建て替えられたり改修が行われてきました。元禄9（1696）年には鹿児島大火により本丸が焼失したという記録があり、天保14（1843）年には御楼門の建て直しが行われたという記録が残されています。そして今回の御楼門復元は147年ぶりの再建ということになります。

西南戦争と時代の終焉

明治10（1877）年の西南戦争では城山周辺で最後の攻防が繰り広げられました。官軍からの銃弾や砲弾は私学校や鹿児島城の御楼門周辺にも数多く撃たれ、石垣にその痕跡を残しました。凹みの中心には銃弾の一部と思われる鉄分が付着していたり、石垣の下からはエンフィールド銃の鉛製の銃弾や砲弾の破片が出土しました。無数の砲弾の痕跡や出土遺物は、当時の激戦のようすを思い起こさせる貴重な資料といえます。

文教施設としての新たな時代

明治の中ごろになると、居館跡に中学造士館、次いで第七高等学校造士館が設立され、戦後は鹿児島大学の文理学部、次いで鹿児島大学医学部と移り変わり、昭和58（1983）年に県歴史資料センター黎明館が開館しました。

発掘調査の成果

1 御楼門の基礎構造

御楼門跡の発掘調査を行ったところ、表土の下5～10cmから「三和土（たたき）」と呼ばれる堅く、白～灰色の土が検出されました。「三和土」とは、赤土・砂利などに消石灰等を混ぜて固めた土のことです。土間の床に使われるもので、御楼門の内部も同じように作られていました。



御楼門の礎石（表面に柱の痕跡が残されています）

また、御楼門の柱を支えていた礎石は合計18基ありました。礎石は凝灰岩と呼ばれる石材を加工して作られ、一辺の大きさは最大123cm、厚さは最大72cmありました。御楼門を18基の礎石で支えるには、大きくて重い礎石が必要だったと考えられます。また、柱がのっていた礎石の表面には赤～橙色の鉄錆が方形の枠状に残っていました。これは柱の下部に巻いた根巻金物と呼ばれる金属の痕跡で、線状に残された痕跡から柱の大きさを推定することができます。



御兵具所基礎（左側）と天文観測室基礎（中央の円）

2 御兵具所跡と天文観測室

正徳3（1713）年と天保年代に書かれた絵図には御楼門の北東側に「御兵具所」や「御兵具張番所跡」の記載があります。今回の調査ではこの建物の基礎と思われる栗石や基礎石等の遺構が検出されました。御楼門の横に武器庫等を置くことで、有事の際はすぐ対応できるように備えていたと考えられます。

また、兵具所跡と御楼門の間から天文観測室の基礎が検出されました。第七高等学校造士館時代に物理学を教えていた村上春太郎教授は天文学に造詣が深く、当時の岩崎行親館長に七高天文台を建設させたということです。天文台は七高創立25周年記念の年の昭和2年末に完成しました。

3 多量の瓦



鬼瓦をはじめとする、多くの瓦が出土しました。御楼門の大きさに比例するように、大きい瓦が多く、軒丸瓦には桐や牡丹の文様が入ったものも出土しました。桐の文様は豊臣秀吉のつくったお城で多く見られ、その当時の中央とのつながりがうかがえる資料です。牡丹は島津家の家紋として使われていました。

4 島津珍彦と岩崎行親

御楼門の周辺から、花崗岩で作られた銅像台座の銘板と台座が出土しました。銘板には「珍彦君」と彫られていました。古写真によると、銘板は中学造士館の初代校長であった島津珍彦の銅像台座に使われたもので、台座は第七高等学校造士館初代館長である岩崎行親の銅像台座であることが分かりました。銅像が見つかなかったのは、太平洋戦争時の金属類回収令で武器生産に使うために供出されたのかもしれません。



島津珍彦君像（姶良市歴史民俗資料館蔵）

新刊報告書紹介1

昨年度、県立埋蔵文化財センターでは5冊の発掘調査報告書を刊行しました。その作業中に接合・復元などによって明らかになった新しい事実のいくつかを紹介します。

縄文時代の祈り ー木佐木原遺跡（姶良市蒲生町）ー

平成27・28年度に県道伊集院蒲生溝辺線改築に伴って調査された縄文時代中・後期を主体とした遺跡です（『埋文だより』第74号でも紹介）。

縄文時代中期後半から後期前葉まで多種の土器が連綿とみられます、特に中期後半の中尾田Ⅲ類土器や阿高式土器、後期前葉の宮之迫式土器などが多く出土しています。今後、細分類・共存関係などの資料として貴重なものになるでしょう。

土器とともに、石鏃・石錐・磨製石斧などの石器も多数出土しています。孔を穿ったり、溝状凹線などを刻んだ軽石製加工品も多く出土しました。内面に赤色顔料のついた土器や、赤色顔料の付着した台石・敲石なども多く、当時の生業や祭祀などを検討する上で興味深い資料です。



様々な種類の軽石製品（木佐木原遺跡）

石器製作の場 ー中津野遺跡（南さつま市金峰町）ー

国道270号（宮崎バイパス）改築工事に伴って平成18年度から29年度まで調査が行われました。遺跡は南側の台地から北側の低湿地にかけて伸びていますが、昨年度は台地部の報告書が刊行されました。台地部では旧石器時代から近世まで長期にわたる遺物が出土しています。

台地の南端近くでは、 $11 \times 8.5\text{m}$ の範囲に570点の石片が出土しました。石材は黒曜石が63%を占め、他に安山岩、玉髓などがありました。未製品も含め、打製石鏃が25点出土していることから石鏃の製作跡と推定されます。他に異形石器2点と打製石斧1点、磨石1点も出土しました。縄文時代中期～後期のものと考えられます。



敲石（右上）などで作られた石器類（中津野遺跡）

「西南戦争を掘り、学ぶ」事業紹介

センターでは平成30年度から「西南戦争を掘り、学ぶ」事業を始めており、これまで滝ノ上火薬製造所跡（鹿児島市）など3か所の調査を実施し、その成果を元にして小学校から高等学校での授業支援を行ってきました。

最終年度の今年度は曾於市大隅町の「岩川官軍墓地」と、曾於市末吉町の「薩軍の墓」の確認調査や墓石の配置図作成などを実施しました（5～6月）。年度末にはこれらの成果をまとめ、報告書を刊行する予定です。



整然と並ぶ墓石（岩川官軍墓地）

新刊報告書紹介2

昨年度、公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センターでは10冊の発掘調査報告書を刊行しました。その中から安良遺跡と牧山遺跡を紹介します。

おにぎり？ —安良遺跡（志布志市志布志町）—

中世前半（鎌倉時代）頃と考えられる2か所の柱穴から、“不思議な黒いかたまり”が出土しました。細かく観察すると、どちらも炭化した米粒の集まりであることがわかりました。

1つは、直径約8cm・厚さ約4cmの炊いた米のかたまりで、X線で撮影したところ、外から圧力をかけて固められていました（炭化ご飯塊）。当初は「おにぎりか？」とも思われましたが、表面に残っていた痕跡から、木箱のようなもの（弁当箱？）に詰められていたようです。放射性炭素年代測定では、12世紀後半～13世紀中頃との結果が出ました。

もう1つは、直径約3cm・厚さ約2cmの糀のかたまり（炭化糀塊）であることがわかりました。本来、糀を固めようとしても崩れてしまうはずなので、何か袋のようなものの中に入れられていた可能性があります。こちらの年代測定結果は13世紀代でした。このように、1つの遺跡から2種類の炭化米塊が出土した例はほとんどありません。また、本遺跡のように出土状況がわかる例も多くありません。県内における炭化米塊の出土事例は横川城跡（霧島市）・別府城跡（南さつま市）に続き3例目で、当時の食生活を知るうえで貴重な資料といえます。



おにぎり？のように見える炭化米

土器に秘めた想い —牧山遺跡（鹿屋市串良町）—



様々な形や文様のついた土器（牧山遺跡）

が見られました。土器の総量は多くなかったものの、土器の型式数は多く、大型の土器が少ないと分かりました。

石器は石鏃と磨・敲石類が多く出土しました。このことから木材の伐採は盛んでなく、狩猟と堅果類の採取・加工場として何度も利用されたと考えられます。つまり本遺跡は短期間型キャンプの場として人々が繰り返し生活してきた場所と考えられます。

牧山遺跡は標高約110mの笠野原台地の縁辺に位置し、串良川が北側と東側を蛇行する、旧石器時代から中世にかけての複合遺跡です。今回の報告書では旧石器時代から縄文時代早期までの成果について報告しました。

土器は縄文時代早期の石坂式土器と平椿式土器が最も多く出土し、同じ型式内でも細かなバリエーション

「発掘された日本列島

—新発見考古速報 2020—

に出品しています！

6月から来年2月まで全国5か所の博物館で実施される展示会に、センターの収蔵品から南九州市鞍曲遺跡で出土したナイフ形石器や接合資料など24点が選ばされました。

詳しくはセンターホームページでご確認ください（右下のQRコードより）。



製作過程が推定できる接合資料

学してみない?
発掘現場

令和2年度 発掘調査予定遺跡



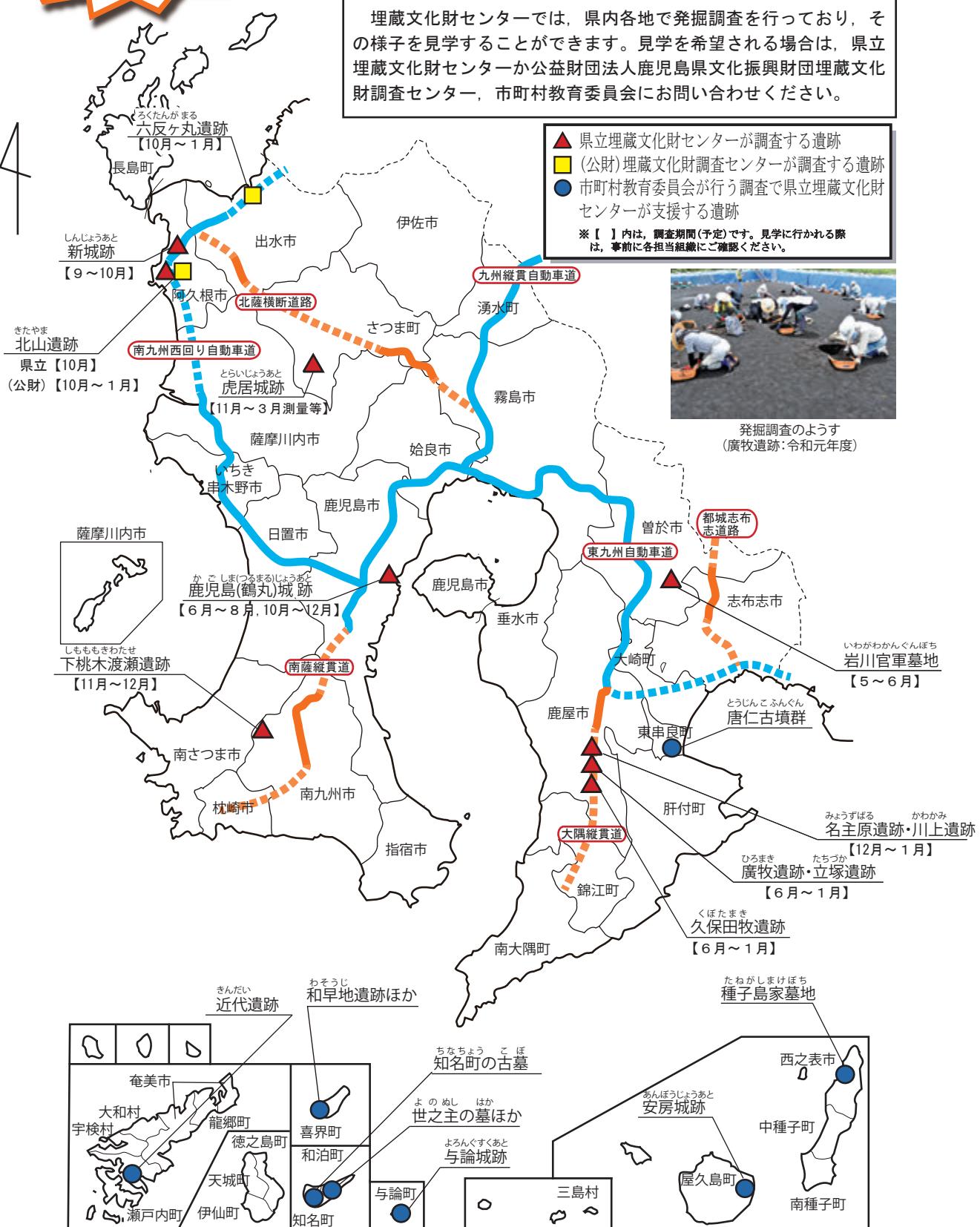
埋蔵文化財センターでは、県内各地で発掘調査を行っており、その様子を見学することができます。見学を希望される場合は、県立埋蔵文化財センターか公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター、市町村教育委員会にお問い合わせください。

- △ 県立埋蔵文化財センターが調査する遺跡
- (公財)埋蔵文化財調査センターが調査する遺跡
- 市町村教育委員会が行う調査で県立埋蔵文化財センターが支援する遺跡

※【 】内は、調査期間(予定)です。見学に行かれる際は、事前に各担当組織にご確認ください。



発掘調査のようす (廣牧遺跡:令和元年度)



当センターの見学は、土曜・日曜・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで、入館料は無料です

なお、当センターのホームページは、鹿児島県（<https://www.pref.kagoshima.jp/>）から入るか「上野原纏文の森」で検索してください。
また、マイクスピーカーは右側のUSBポートからも取り付けください。

検索キーワード

上野原縄文の森

検索

クリック



ホームページ



フェイスブック

埋文だより 第82号

発行日 令和2年6月29日
編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4318 鹿児島県霧島市
国分上原龍文の森2番1号
TEL 0995-48-5811・FAX 0995-48-5820
URL:<https://www.jomon-no-mori.jp>
E-mail:maibun@jomon-no-mori.jp